

様式1 平成25年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	学校名	飛騨市立山之村小・中学校			
校長名	渡邊 登紀夫	対象学年	小学1年～中学3年	人数	小学生5人、中学生3人	
活動名	文化祭・船津座公演		時間数	40～60時間	継続年数	5年
題材	① 自然環境（山野・河川・その他） [ゼンマイ採り、加工・販売] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [ ] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習） [伝統芸能（山っ子獅子、きつねつり）] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [ ] ⑤ 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 [音楽、劇発表] ⑥ その他（ ） [ ]					
複数年継続するための工夫改善	○文化祭や船津座公演での音楽発表や劇発表では、来場される方の興味・関心のあるものを発表するように内容を精選している。伝統芸能については、機会を捉えて地域の方を外部講師として招き、指導を受けることで地域の伝統を引き継いでいる。来場者のアンケートを次年度の参考にしたり、子ども達に返して活動への意欲を高めたりしている。					
<p>1 ねらい</p> <p>◎日常の学習発表の場として、計画・準備・発表を通して学校目標「呼びかけます、応えます」の姿を高めるとともに、普段お世話になっている地域の人たちに感謝の気持ちを伝える。</p> <p>◎地域に伝わる伝統芸能について学び、発信していくことで、ふるさとを愛し誇りに思う心を育てるとともに、地域の伝統芸能を知り受け継いでいこうとする心情を育む。</p> <p>◎山での行動の決まりや地域の自然のよさを知り、恵みに感謝する心情を育てるとともに、山之村の自然のすばらしさを発信する。</p> <p>2 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭、船津座公演は毎年地域や町内に住む方々が楽しみにされている行事である。山之村小中学校の児童生徒は、小中それぞれが音楽発表、伝統芸能『きつねつり』『山っ子獅子』の披露、劇の発表を行う。また、小中学校の発表以外にも、保育園や地域の方々による有志の発表もあり、保護者だけでなく、地域の方々も多数参加することから、児童生徒にとっては、日頃の感謝の気持ちや頑張りを伝える機会である。</li> <li>・船津座公演は神岡町内にある劇場『船津座』を貸し切り、山之村地域外に住む方々に山之村の自然のすばらしさや文化、自分達の頑張りを発信する場である。文化祭での経験を生かし、音楽発表、伝統芸能『きつねつり』『山っ子獅子』の披露、劇の発表を行うほか、5月に学校近くの山で採取したゼンマイを保存食にしたものの販売体験をする。</li> </ul> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子について</p> <p>(1) 音楽発表、劇について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スローガン「創造」のもと、自分たちで創り上げた音楽や劇を観てもらいたいと願い、小学生は音楽『アイアイ』『ラバーズコンチェルト』、劇『カップカッパへのカップ』、中学生は音楽『クラッピングファンタジー』『夏の日の思い出』、劇『道具屋』の練習に取り組んだ。特に劇では登場人物の個性を出すため、役に応じた話し方や動き方、間の取り方などを工夫し練習を重ねた。このような成果を発揮し、当日は、日頃の感謝の気持ちや、頑張りを伝えることができた。</li> </ul> <p>(2) 伝統芸能「きつねつり」「山っ子獅子」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『きつねつり』『山っ子獅子』は地域に伝わる伝統芸能である。地域の方を講師にお招きして指導をしていただいたり、中学生が小学生に笛の吹き方を教えたりして伝統を引き継ぎ、文化祭や船津座公演での披露を目標に年間を通して次の①～③のように3回披露した。</li> </ul>						

①着任式で転入職員に向けて披露（4月8日）

- ・新しく赴任してきた職員に、山之村地域の『山っ子獅子』を披露し、歓迎の気持ちを伝えることができた。

②山之村だいこんマラソンでの披露（9月15日）

- ・主催者からの依頼を受け、毎年山之村地域で行われるだいこんマラソンの開会式のセレモニーで小学校高学年と中学生が合同で『山っ子獅子』を披露した。岐阜県内外から訪れるランナーに向けて、地域の伝統文化を発信することができた。

③文化祭、船津座公演での披露（文化祭11月9日、船津座公演11月11日）

- ・山之村の地域や神岡町内に住む方々に向けて、今年最後となる『山っ子獅子』と『きつねつり』を堂々と披露した。4月からの練習の成果を発揮し、精一杯発表をすることで山之村に伝わる伝統芸能のすばらしさをたくさんの人々に伝えることができた。

(3) ゼンマイ採り・加工・販売体験について

- ・以下の①～⑥のように計画、準備、採取、加工したものを船津座公演で販売した。

①ぜんまい集会（5月1日）

- ・児童生徒会が中心となって『ぜんまい集会』を開き、ぜんまいの見分け方や採り方のマナーや山でのルールを小学校低学年に教えるとともに、11月の船津座公演での販売に向けて活動の見通しをもつことができた。

②ゼンマイ採り（5月8日）

- ・山を所有する地域の方の許可を頂き、学校付近の山でゼンマイ採りを行った。児童生徒と教員を小学校低学年、小学校高学年、中学生と3つのグループに分け活動し、20kgを超える量のゼンマイを収穫することができた。

③すま採り（5月8日）

- ・収穫したゼンマイのすま（食するのに適さない部分）を採る作業を行った。

④乾燥（5月8日～6月初旬）

- ・ゆでたゼンマイを干し、ゼンマイ揉み（1時間おきに日に当たる向きを変えながらゼンマイを揉む作業）をゼンマイが乾燥し長期保存できるまで毎日行った。活動は小学校低学年から中学生まで当番制にすることで、全児童生徒に責任を持たせることができた。

⑤袋詰め（6月11日）

- ・乾燥させたゼンマイを70袋に小分けし袋詰めしたものを冷凍保存した。また、山之村のよさを伝える工夫として、販売するゼンマイの袋に貼るメッセージを書いた。

⑥販売体験（11月11日）

- ・会場に会場に来てくださった神岡町内の方々に向けてゼンマイを販売した。

#### 4 活動による児童生徒の変容

- 文化祭や船津座公演に向けてゼンマイの販売体験の取り組みや、地域の伝統芸能を練習し発信することで、山之村の自然や文化のすばらしさを実感し、地域の一員として、よさを引き継ぎもっと広めていきたいという気持ちをもつことができた。全校児童生徒が8人という極少数人数であるということを生かし、「呼びかけます、応えます」を合い言葉に、練習から当日まで一人一人が主役になって取り組むことができた。劇の練習では、一人が複数の役を演じる必要があり、セリフや動きを覚えることに大変苦労したが、諦めることなく一生懸命練習を重ねた。このような児童生徒の努力に加え、家庭や地域の方々の協力もあり、当日は役になりきって見事に劇を演じ切った。公演終了後、ゼンマイを販売する子どもたちに、地域の方から「感動した」「少数の学校が大きく見えた」などたくさんの声をかけていただき、一人一人が大きな達成感を味わうことができた。